

# 牛久：学校周辺に見る自然

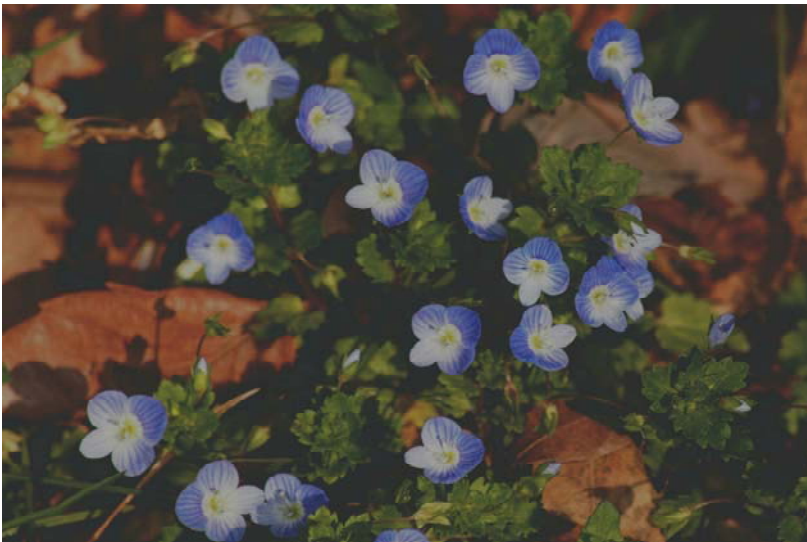
第30号 みずべ公園，牛久市城中町

2016年3月30日発行

## < 早春の花と昆虫、野鳥 >

皆さん、こんにちは。まもなく新年度ですね。この「牛久：学校周辺に見る自然」も、この号で今年度最終としたいと思います。

今回は、3月17日にみずべ公園と観光アヤメ園周辺を歩いた中で観察した早春の花と、そこに訪れた昆虫や野鳥たちを紹介します。



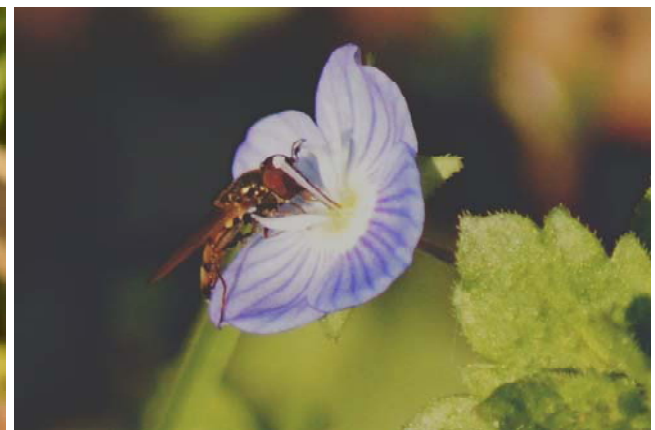
まずは、早春に見られる雑草の花の代表ともいえるオオイヌノフグリ。変な名前を付けられてしまいましたが、近くでよく見るととても美しい花です。朝開くときに自分の花粉が雌しべにつき、その後ハナアブ類を中心にいろいろな昆虫が訪れますがそれで受粉をすることはあまりなく、夕方閉じるときに自分の花粉をつけて果実を实らせることが多いのだそうです。美しくかわいいオオイヌノフグリの花。



オオイヌノフグリの蜜や花粉をなめる、ホソヒラタアブ。



オオイヌノフグリの蜜をなめる、ツヤヒラタアブ。





オオイヌノフグリの蜜をなめるアシフトハナアブ(左)と、ハナバエの仲間(右)。早春は、ハエやハナアブ類が多く訪れる。



オオイヌノフグリの蜜を吸うセイヨウミツバチ。3月後半、暖かくなってくると、ミツバチやマルハナバチが多くなる。



こんな小さな花ですが、暖かい日に意識して探してみると、意外にたくさんの昆虫が蜜や花粉を求めてやってきます。季節や時間帯によっても変わってくるので、興味のある人はぜひ調べてみて下さい。この日は、成虫で冬越ししたキタテハも蜜を吸いに来ていました。満足できるだけ、蜜は吸えたでしょうか？

オオイヌノフグリの蜜を吸う成虫越冬の蝶、キタテハ。

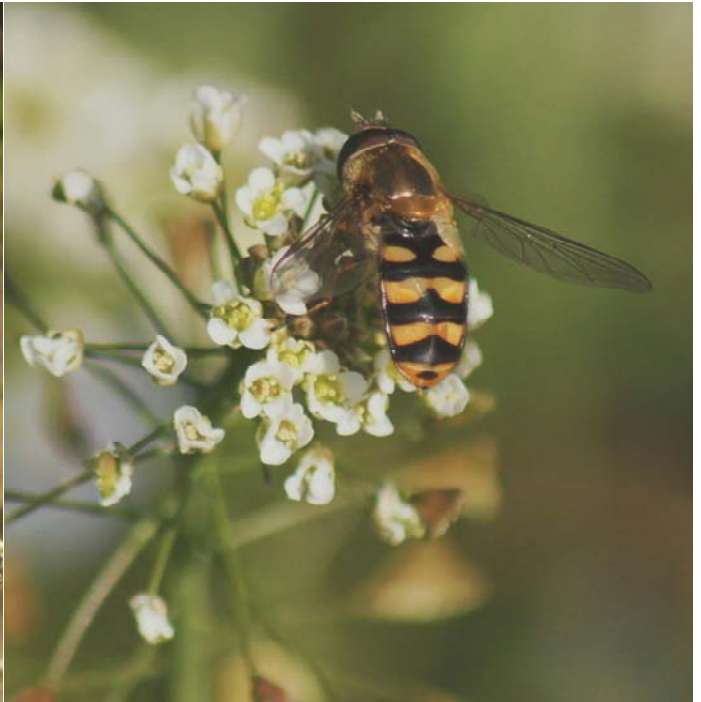
続いてコハコベ。これも小さな花ですね。花卉が10枚あるように見えますがじつは5枚で、それぞれが根もと近くまで2つに裂けているので倍の10枚に見えるのです(23年度第6号を参考に)。こちらもハエやハナアブ類が中心で、暖かくなると小さなハナバチ類もやってくるようになります。



コハコベ(左)と、その蜜を吸うハナバエの仲間(右)。



コハコベの蜜をなめるナミホシヒラタアブ(左)と、蜜を吸うハナバチの仲間(右)。

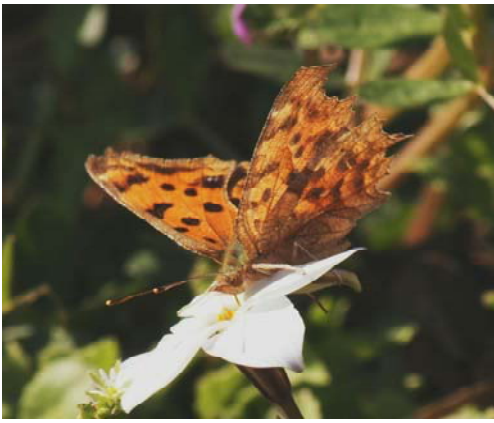


ナズナ(左)と、その蜜をなめる、ナミホシヒラタアブ(右)。

次はナズナ。菜の花と同じアブラナ科。大きさや色は違うけれど、花のつくりは同じですよ。虫めがねで、じっくり見てみましょう。ここにもハナアブ類が来ていました。



むらさき 紫色のかわいい花をつけているのは、ヒメオドリコソウ(ひめおどり子草)。名まえもかわいいですね。シソ科の仲間なので茎が四角です。モンキチョウが蜜を吸っていました。  
ヒメオドリコソウ(上)と、その蜜を吸うモンキチョウ(下)。



ストローを花の奥までさし入れて、ハナニラの蜜を吸うキタテハ(左)。少しもどしてみると(中)、花粉でびっしり(右)。



こちらはハナニラ。以前ご紹介したオオアマナと同じく「ベツレヘムの星」という別名があり、葉をもむと、ニラのようなにおいがします。キタテハやモンキチョウ、ハナバチ類が蜜を吸っていました。

ハナニラの蜜を吸う、ハナバチの仲間。



咲きだしたコブシ(左)と、その花を食べるヒヨドリ(右)。



続いて野鳥。コブシが咲き始めていましたが、何とその花を食べている鳥がいました。ヒヨドリです。花に来る虫でもつついているのを見ていたら、どうも食べているようです。桜の蜜を吸うのはよく見かけますが、これは初めて見ました。

カワヤナギでは、シジュウカラが花を食べていました。こちらも花のかたまりをくわえたかと思ったら、そのまま食べてしまいました。

開花中のカワヤナギで、花を食べるシジュウカラ。

最後におまけ、水路のメダカと、まだ残る冬鳥のコガモとオカヨシガモ。 【理科支援員：宮内】

